

特別対談

ボン大学教授/THE NEW INSTITUTE アカデミックディレクター

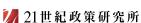
マルクス・ガブリエル

経団連会長

十倉 雅和

司会・翻訳監修

21 世紀政策研究所研究主幹/東京大学東洋文化研究所所長 中島 隆博



Keidanren

Policy & Action

ボン大学教授 THE NEW INSTITUTE アカデミックディレクター マルクス・ガブリエル

1980 年生まれ。2005 年に後期シェリングをテーマにした論文でハイデルベルク大学から博士号取得。2009 年に権威あるボン大学哲学正教授に史上最年少で抜擢。 「新実在論」を打ち立て、世界的に注目を浴び、「なぜ世界は存在しないのか」が哲学書としては異例のベストセラーに。





経団連会長 十倉 雅和

1950 年、兵庫県生まれ。74 年東京大学経済学部卒業後、住友化 学工業(現・住友化学)入社。94 年住友化学ペルギー S.A./N.V. 出向。 2003 年執行役員 技術・経営企画室部長。08 年代表取締役常務 執行役員、09 年代表取締役専務執行役員、11 年代表取締役社長、 19 年より代表取締役会長。21 年一般社団法人日本経済団体連合 会会長。

21 世紀政策研究所研究主幹 東京大学東洋文化研究所所長

中島 隆博

東京大学法学部卒業、ハーヴァード大学イエンチン研究所客員研究 員、バリ第8大学客員教授などを経て2023年より現職。博士(学術・ 東京大学)。近著に『全体主義の克服』(マルクス・ガブリエル共著 集英社新書 2020年)、『中国哲学史一諸子百家から朱子学、現代 の新儒家まで』(中公新書 2022年) など。



経団連が掲げる「サステイナブルな資本主義」の深掘りと実践を目的として、21世紀政策研究所では「資本主義・民主主義研究プロジェクト」(研究主幹:中島隆博東京大学東洋文化研究所所長)を推進している。

その一環として、今般、マルクス・ガブリエル ボン大学教授を招き、十倉雅和 経団連会長との特別対談を実施した。

今回の対談では、混迷を深める世界の現状やこれに大きな影響を及ぼしていると指摘される資本主義や科学技術のあり方等につき、経済界・アカデミアそれぞれの立場から意見を交換し、これからの人類にとって望ましい未来社会の方向性を展望した。

世界の現状をどう見るか

中島 本日はようこそお越しいただきまいた。十倉会長と、ボン大学教授、THE NEW INSTITUTE アカデミックディレクターであるマルクス・ガブリエル先生をクターであるマルクス・ガビッグである

れぞれにお話いただこうと思っています。とについて、ガブリエル先生と十倉会長そとについて、ガブリエル先生と十倉会長そまず、世界の現状をどう見るのかというこ早速今日の本題に入りたいと思います。

しくお話いただけますか。れておられます。その意味について少し詳が入れ子状の構造になっている」と表現さガブリエル先生は、世界の現状を「危機

複雑な危機に直面する世界

ガブリエル 多くの危機があると言われて

しょう。 しょう。 しょう。 しょう。 しかし、「複数の危機(polycrisis)」 が存在しているというよりは、私たちが社 を的に複雑な危機のシステムの中にいて、 をがお互いに因果関係をなして影響を をがお互いに因果関係をなして影響を というよりは、私たちが社

例えばロシアによるウクライナ侵攻には、欧州グリーンディールが非常に深く関係しています。ヨーロッパのエネルギー戦略がを再考せざるを得なくなりました。侵攻はその一部なのです。EUもロシアも、化石その一部なのです。EUもロシアも、化石とをわかっているため、ポートフォリオを変えたのです。このように、気候変動問題と経済上の危機は互いに影響し合っています。それを「入れ子構造の危機(nested situation)」と呼んでいるのです。

が他にも挙げられます。一つの事態に対すこれは複雑系の例なのです。同様の事態

る解決策は、たとえ良いものであれ正しいる解決策は、たとえ良いものであれ、他のシステムに影響を与え、ものであれ、他のシステムに対処するシステムいない結果を受け入れて対処するシステムなのです。ところが今や、自由民主主義的なのです。ところが今や、自由民主主義的なが、「入れ子構造の危機」をリベラルに解決しようとしても、また危機を招いてし解決しようとしても、また危機を招いてしまうのです。

唯一の方法なのです。 応するには、複雑系を作り出すことこそが新しい形式の協力が必要です。複雑系に対れ、それを乗り越えるには、分業ではなくれ、それを乗り越れるには、分業ではなく

貴重な機会だと思っています。対処している実務家の方とご一緒できる、回の対談は、実際の経済における複雑系に回の対談は、実際の経済における複雑系にが、日本は世界で第三位の経済圏です。今

ビジネスとアカデミアの深い協力で 複雑な「入れ子構造の危機」を乗り越える

に資本主義で対応するかが大きな課 雑な危 にこ

私たちは、資本主義の秩序に関する理解私たちは、資本主義の秩序に関する理解をもたらすことができるのではないでしょうか。その際、ビジネスを利用して新しい価値を生み出すにはどうしたら良いのでしょうか。その際、ビジネスにとって必要なこととは何でしょうか。「入れ子構造の危機」ととは何でしまうか。「入れ子構造の危機」ととは何でしまうか。「入れ子構造の危機」というのが、私からの提案です。

地球規模的な課題が増加

になっていますか。 中島 十倉会長は、世界の現状をどうご覧

複雑系の危機が生じているからです。かつ結果も相互に影響し合うということで、表現です。色々な危機が相互作用を起こし、子構造の危機」というのは、まさに絶妙な子膚 ガブリエル先生がおっしゃった「入れ

います。 えていくかが非常に大きな課題だと考えて ては、これにどのような資本主義の形で応 きるとは思っていません。我々経団連とし の危機に対して、一つの答えだけで対応で ロールするかという問題です。この複雑系 (disruptive technology)」をどうコント な危機をもたらしている「破壊的な技術 思うのは、先生もおっしゃるように、新た く取り上げていたのですが、最近もう一つ それが再生産されているという問題です。 す。二つ目は格差の拡大、固定化、 が大きな教訓を得たコロナの問題も含みま は気候変動問題だけでなく、少し前に我々 の崩壊の問題です。生態系の崩壊というの がもたらしたものでしょう。一つ目は生態系 この二つに関しては、私は従来からよ 多くの原因は、行き過ぎた株主資本主義 しかも

ことに、一国だけでは解決できない地球規さらに違う面から見れば、非常に厄介な

目は、 それにもかかわらず、世界は今、分断の方 た通り、協調や協力を必要としています。 国だけが解決案を出して解決できる問題で 壊的な技術の問題です。これら全てが、一 す。三点目は、まさに先ほど申し上げた破 です。生態系の崩壊という意味では、 や核戦争をなくすという問題です。二点 三つの問題があります。一点目は、核兵器 ユヴァル・ノア・ハラリ氏が述べるように、 模的な課題が増えてきたということです。 かつ複雑な危機の時代に入っているのです。 向に走っています。我々は非常に難しく、 はなく、まさにガブリエル先生がおっしゃっ デミック的な新しい感染症の問題も含みま 我々が苦しんでいる気候変動の問 パン

経済界主導の新しい協力モデル

ご発言に対するお考えを伺えますか。 中島 ガブリエル先生、今の十倉会長の

れこそが今日の矛盾です。 ステムやソーシャルネットワークといった なっています。だからこそグローバルな協 に関わる破壊的技術は、AI以上に問題と 性を説くのです。ちなみに科学者に言わせ 間に関わっているため、誰もが協力の重要 例ですが、あらゆる問題がグローバルで人 とって協力が必要であることは、中国を含 ガブリエル 条件が、分断を助長してしまうのです。こ 力が必要となる一方で、そのための AIシ れば、CRISPRなどのバイオテクノロジー オテクノロジーといった技術革新が一つの め誰もが発言するところです。AIやバイ しい方向に向けてくださいました。人類に 十倉会長は、まさに議論を正

でにパラドックスです。
はにパラドックスです。
に対するおそれをもたらすというパラドックスと同じです。パンデミックにおいて、クスと同じです。パンデミックにおいて、クスと同じです。パンデミックにおいて、のが突然その効き目や、ワクチンに関するに、最良の技術であっても、技

が必要だと考えています。すなわち、全て私が提唱した「形而上学的パンデミック」このパラドックスを乗り越えるためには、

テムとして、観念のシステムも重要です。 るの人間が連帯するということです。コロナの人間が連帯するということです。 おしい協力のモデルが求められています。 が、その後は分断化していきました。しかが、その後は分断化していきました。 と「形而上学的パンデミック」に至るには、 経済界においてこそ、それを試みることが です。それに加えて、私が提唱する「前向 さの社会変革」のためのグローバルなシステムとして、観念のシステムも重要です。 コロナ

資本主義をどう見るか

行き過ぎた市場原理主義

中島 ありがとうございます。今のお二人のお話から、現在の「入れ子構造の危機」の背後には、資本主義の問題とテクノロジーの問題という二つの大きな問題が存在していることが分かってきました。そこでまずは十倉会長に、資本主義の問題とテクノロジーのいることが分かってきました。今のお二人

主義というのは非常に優れた制度であった十倉 最初に強調しておきたいのは、資本

いということです。し、これからもあり続けられると期待した

資本主義が優れた制度である一つ目の理質本主義が優れた制度である一つ目の理問は社会的動物ですから、どうしても人と問は社会的動物ですから、どうしても人と書別化したいがために競争になります。資本主義はそれを非常に健全な形で行わせます。その過程でイノベーションが生まれてきましたし、これからも生まれ続けるでしょう。もう一つは、市場を通じて、非常に効率的な資源配分ができるという点です。しかしながら最近は、主に新自由主義やマネタリズムからきていると思われる市場

場原理で解決できると言わんばかりの言説原理主義が行き過ぎており、経済は全て市マネタリズムからきていると思われる市場しかしながら最近は、主に新自由主義や

1 「形而上学的パンデミック」とは、マルクス・ガブリ1 「形而上学的パンデミック」とは、マルクス・ガブリュル。「全ての人間に関わる」というのが語源的な意味で、なので、「全ての人間に関わる」というのが語源的な意味で、なので、「全ての人間に関わる」というのが語源的な意味で、後に「自然学を超えて」という意味も有するようになった。後に「自然学を超えて」という意味も有するようになった。とすれば、それを乗り越えるために、「形而上学的パンデミック」だとすれば、それを乗り越えるために、「形而上学的パンデミック」だして、あらゆる人間の連帯を提唱したもの。「地球市民・世界市民になろう」という呼びかけがその具体的な連帯の形である。



義の問題があると考えています。 表しているのは、「人間は経済的合理性を とる生き物である」、「ホモ・エコノミクス である」という言説を支えているフリード である」という言説を支えているフリード である」という言説を支えているフリード をどう評価するかという観点は、全く力を をどう語になっている格差 の問題や生態系崩壊の問題、もう少し狭め て言えば、市場原理主義に基づいた資本主 表の問題があると考えています。

割り切れないのです。ケインズは、経済学う分野・理論もありますが、それだけではりません。経済学を自然科学のように扱ケインズ曰く、経済学は自然科学ではあ

は道徳科学であると言っています。道徳科学には価値判断が伴います。しかし、いわゆる市場原理からは価値判断は生まれませた。人間は決して一様ではなく、人間社会というのは多様です。我々は新たな価値判というのは多様です。我々は新たな価値判というのは多様です。ではなく、人間社会というのは多様です。ではなく、人間社会があると要としています。道徳科は道徳科学であると言っています。道徳科は道徳科学であると言っています。道徳科は道徳科学であると言っています。道徳科は道徳科学であると言っています。道徳科は

倫理的資本主義の実現を

中島 ここに来る途中、ガブリエル先生とそらくイコールではないでしょう。十倉会長がおっしゃったように、市場経済では価値の問題が価格に置き換えられてしまっているため、それ自体として議論ができません。私たちは市場経済の外について考えざるを得ないということでしょう。十倉会長が以前言及されていましたが、宇沢弘文先生の「社会的共通資本」という考え方のように、市場経済に還元できない価値に関わる問題を論じなければならないのではないでしょうか。

ガブリエル 日本の人たちに向けて、『倫

理的資本主義』という本を今書き上げつでに深めようと思っています。

り正確に吟味してみたいと思います。しゃったことと共鳴するものですので、よしれらの考えは、まさに十倉会長がおっ

資本主義に関しては、最近色々な文献が 資本主義に関しては、最近色々な文献が 出ていますが、中でもオックスフォード大 学のジョン・ケイ先生とコリン・メイヤー 学のジョン・ケイ先生とコリン・メイヤー 手です。コリンはまもなく出版される本の 中で、実に見事に論じています。彼は以前 の本は、危機にある資本主義をどう修復す るかがテーマです。私たちが議論してきた るかがテーマです。私たちが議論してきた る中で、アダム・スミスらが唱えた、「真の 利益(true profit)」に立ち戻らなけれ ばならないと主張しています。

当化されるという考えです。企業の役割はのシステムを作り上げることではじめて正「真の利益」とは、資本主義は相互支援

はいけった。 はいかではじめて、資本主義は正当化さる人を助けて、コーヒーが手に入るようにといればなりません。その間には、コーヒーを運ぶ人や、関連する食器や家具を作る人も必要です。このようにお互いに助けることではじめて、資本主義は正当化さいた。

テインズの道徳科学という考えには強く 十倉会長がおっしゃった多様な価値判断が 十倉会長がおっしゃった多様な価値判断が 必要です。これはまさしく人文学や社会科 学の対象なのです。広義の社会科学を含ん だ人文学を用いることを想像してみると、 だ人文学を用いることを想像してみると、 だん文学を用いることを想像してみると、 でれは自然科学とは違って、価値判断に関 わるものを見出すということです。異なる 文化において、あるいは複数の文化に渡っ 文化において、あるいは複数の文化に渡っ うか。人間に共通のものとは何なのでしょう うか。ローカルなものとは何なのでしょう

ネスモデルを調整するのです。るマッピングを行い、それに合わせてビジちはそれを踏まえて価値判断の現実に関すか。それを人文学は提示するのです。私た

現実的な価値判断こそ、剰余価値を生み出すものです。剰余価値は、マルクスが考えたような搾取から生まれるものではありません。このことを理解していれば、人間はホモ・エコノミクスであるというフリードマン的な虚構に依拠するよりも、より良い経済を作ることができます。フリードマンはその実証経済学には価値判断は必要ないと考えました。しかし、それが間違いであったことを私たちは今や明らかに目撃しているのです。

ミルは、定常状態の後に何が起こるかにつン・ステュアート・ミルも有していました。によって評価します。こうした考えは、ジョ人間の道徳的な成長をいかにもたらしたか倫理的資本主義は、ビジネスの成功を、

道徳的な進歩の程度を経済的な要素ととも達すると、道徳的に進歩すること、そしていて語っています。つまり、成長の限界に

己的個人(ホモ・エコノミクス)という人間像を正当化する。き社会的責任は、公正かつ自由でオープンな競争を行うといき社会的責任は、公正かつ自由でオープンな競争を行うというルールを守り、資源を有効活用して利潤追求のための事業活動に専念することだ」と述べ、それによって結果的に社会の利益が高められると説いており、経済合理性を追求する利益が高められると説いており、経済合理性を追求する利益が高められると説いており、経済合理性を追求する。

3 字沢弘文の提唱した「社会的共通資本」とは、ゆたかな経る字沢弘文の提唱した「社会的共通資本」とは、ゆたかな経済社会を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を安定的に維持するための社会的装置のこと。自然環境、社を安定的に維持するための社会的装置のこと。自然環境、社会インフラ、教育、医療、金融などが社会的共通資本の重要会インフラ、教育、医療、金融などが社会的共通資本の重要によって左右されてはならず、フィデュシアリー(信託)を受けた適切な専門家集団によって管理されなければならないと指摘した。例えば、大学における研究者が、有用な知識をどれだけ生産したかという基準で評価されたり、病院において、れだけ生産したかという基準で評価されたり、病院において、相関的に魅力ある社会的共通資本」とは、ゆたかな経済社会を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会の共同の主義を関する。

経済成長だけでなく、社会性の視座や 理的な価値判断を伴う資本主義を



ビジネスや科学技術 |然科学と道徳科学を織り合わ の進歩を切り開



たちは今やその状態にいるのです。に測ることが必要になると考えました。私

十倉

ガブリエル先生のおっしゃる倫理的

を統治の一つの型なのです。 な統治の一つの型なのです。 私を批判する人たちは、それは今のドイツ政府のようる人たちは、それは今のドイツ政府のようる人たちは、それは今のドイツ政府のようる人たちは、 保理的資本主義を実現するため

社会性の視座に立脚した企業行動

な鍵になるでしょう。 ラリズムは、倫理的資本主義にとって大き 先生がおっしゃったエコ・ソーシャル・リベ 中島 ありがとうございます。ガブリエル

しょうか。 ル先生のお話に対するお考えを伺えますでことを強調されていますが、今のガブリエことを強調されていますが、今のガブリエ

資本主義に通じますが、私は経団連会長になった時、『From the social point of view』という言葉をキーワードに掲げ、我々のような企業、産業界は社会性の視座を持たなければならないと、会長就任以来、経団連会員の皆さんに強く申し上げてきました。そういう意味で、まさに先生のおっしゃることに深く共鳴します。

先ほどの価値判断を伴うという話にも共通しますが、企業行動には社会性の視座が必要です。カール・ポランニーも、市場が社会から切り離されると、市場が暴走し、全ては市場に隷属するといったことを言いました。

うに、資本主義は自由で闊達な競争を生資本主義の問題点を克服するのも、また資本主義の問題点を克服するのも、また資本主義がそうですが、

んで、新しいイノベーションを生みます。んで、新しいイノベーションを生みおいではないではないう側面を持ちますから、私は展を生むという側面を持ちますから、私はに、社会性の視座や価値判断、倫理が入ったような資本主義を築くべきではないでたような資本主義を築くべきではないでしょうか。

科学技術をどう見るか

中島 お二人のお話には、非常に共通する部分がありました。資本主義には、単なる部分がありました。資本主義には、単なるが組み込まれている、あるいはそのように資本主義を考え直すことによって、資本主義の危機を乗り越えられるのではないか、といったお話でした。十倉会長から科学とといったお話でした。十倉会長から科学とといったお話が出ましたので、科学技術の問題が組み込まれている。

えでしょうか。 先生は、科学技術の現在についてどうお考 について考えたいと思います。ガブリエル

科学・技術・倫理の協力が必要

ちですが、それらを活用して私たち自身を 技術を活用することで、より良く倫理を理 たり限界づけたりする必要があると考えが AIをはじめとする破壊的な技術を規制し 解できるという側面もあります。私たちは のです。これが一つの側面です。また先端 ているからこそ、技術製品には市場がある 当化されます。人々の利益がそこに含まれ 先端技術は人々の利益を満たすことで、正 に織り合わさっています。例えば、現代の ガブリエル科学と技術と倫理は、 密接



的な改善のためのエビデンスとして活用で 構成されているのかが明らかになり、倫理 した研究から、人間の欲望が遺伝的にどう 書かれた本も、いくつか出ています。こう するためにはどうすれば良いのかについて 奪者のような行動をとるのか、それを克服 を明らかにしました。また、人間がなぜ略 たに、興味深い考古遺伝学的なエビデンス クス・プランク研究所が、それに関して新 いかについて考えています。ドイツのマッ より良く理解することも可能でしょう。 人間はなぜ地球温暖化を回避するのが難し 簡単な例を挙げましょう。多くの人々が、

し、反対に倫理がビジネスと科学技術の進 ジネスと最先端の科学技術が倫理に貢献 経済的にも成功するでしょう。最先端のビ 人は誰であっても道徳的に良いことを行い、 です。例えば、エネルギー危機を解決する なることで、倫理的な製品を創造できるの 徳科学が交わる方法です。それらが一緒に 複雑ではありますが、これが自然科学と道 が科学の発展を正しい方向に導くのです。 のように価値判断に貢献し、逆に価値判断 織り合わさっており、科学と技術は経済学 このように、科学と技術と倫理は密接に

> 創造的破壊を導くのです。 ルです。規制や限界づけではなく、価値が 歩をもたらしうるのです。これが私のモデ

中島 今のお話について、十倉会長はどう お考えでしょうか。

mRNA ワクチンが人類を救いました。 リコ先生の作ったコロナウイルスに対する ています。例えば直近では、カタリン・カ 思っていませんが、科学を肯定的に評価し に、私は科学だけで全てが解決できるとは 十倉 全く同感です。冒頭申しましたよう

ザイナーベイビーや新人類を創る技術など それは、ガブリエル先生がおっしゃるよう にできない面があるのも事実です。しかし に、ただ厳しく規制するのではなく、どの のように、科学や破壊的な技術には野放し 一方で AIや、バイオゲノムを用いてデ

きるようになっています。

の連立政権であることから。 現在のドイツ政府が、緑の党、 社会民主党、 自由民主党

4

道徳的特性は市場によって処理され、自然の汚染と生活環境 土地といった生産要素は商品となり、人間の物理的・心理的 生するような自己調整的市場を自由に作動させれば、労働や における販売のために行われ、全ての所得がその販売から発 東洋経済新報社、2009年)において、全ての生産が市場 5 カール・ポランニーは、『大転換』(野口建彦・栖原学訳) や景観の破壊が進み、社会も破壊されると述べている。

の観点から議論すべきだと思います。ような使い方をすれば良いか、倫理や価値

に差し掛かっていると言えるでしょう。ところが、で取り組むべき課題でしょう。ところが、他の危機で分断が進む中で、それが難しくなってきたのです。まさに科学の危機が到来しているのかもしれません。分断が進み来しているのかもしれません。分断が進み不一ションは停滞します。ところが、で取り組むべき課題でしょう。ところが、

先端技術の光と影

中島 十倉会長もガブリエル先生もおった。 十倉会長もガブリエル先生もおった。 大端技術には光と影しゃっているように、先端技術には光と影と見なければなります。影の部分も当然きちんと影について、私たちはどういうふうに私たちが共有していくかは重要な課題です。 先端技術の持つ両義性や光度な課題です。 たいかい おこ人のお考えを伺えます こようか。

う。エネルギー問題については、どのようも問題を見ていかなければならないでしょ価の見地だけでなくグローバルな観点から**ガブリエル** 光と影に関しては、リスク評

限り調整していかなければなりません。うか。こうした価値判断について考えるには、倫理、哲学、その他の人文学が共に必は、倫理、哲学、その他の人文学が共に必な戦略がグローバルに見て適切なのでしょな戦略がグローバルに見て適切なのでしょ

大きな問題としてモビリティがあります。メキシコのモンテレイには600万人の人々が暮らしていますが、公共交通機関の人々が暮らしていますが、公共交通機関の人々が暮らしていますが、公共交通機関の大きにただがカファクトリーを建設し、電気自動車をギガファクトリーを建設し、電気自動車を導入しようとしていますが、現地の人々にでテスラなどがモンテレイ工科大学付近にでテスラなどがモンテレイ工科大学付近にでテスラなどがモンテレイ工科大学付近にでテスラなどがモンテレイ工科大学付近にできることは、グローバルに受け入れ可能な、べきことは、グローバルに受け入れ可能な、べきことは、グローバルに受け入れ可能な、できことは、グローバルに受け入れ可能な、本さによっという。なすといいエネルギー・システムをどう作るか考えることです。そうしてはじめて、十倉会長がおっしゃる意味での新しい解決に辿り着くのです。

に立てば、最新鋭の未来的な技術を開発すゆる自由は社会的な自由でもあるのです。あらとは、社会的な自由でもあるのです。あらっても、社会的な自由でもあるのです。あらっては、社会的な自由でもある。



あります。 あります。 あります。 は、例えばアフリカのパートナー るためには、例えばアフリカのパートナー るためには、例えばアフリカのパートナー

手を組む必要があるのです。 は当断なしには実現できません。ここにおとを説得する必要があります。それは、価とを説得する必要があります。それは、価とを説得する必要があります。それは、価とを説得する必要があるに値するというこまた、資本主義におけるこれまでの欠点

先生は自由の話をされましたが、その際、中島 ありがとうございます。ガブリエル

見直しをなさっています。ました。ガブリエル先生は、ここでも一つ社会的な自由なのだということを強調され自由というのは、個人の自由というよりも、

伺えますか。 術の光と影について、十倉会長のお考えをがブリエル先生のお話を受けて、先端技

十倉 私は経団連会長になる前に、日本の 科学技術・イノベーションを扱うには自然科学技術・イノベーション 高年目の時に、科学技術・イノベーション を扱うには自然科学だけではなく、人文 でいます。

れません。しかし地球上に住んでいる我々、時は、自然科学だけで考えれば良いかもし生命の存在しない宇宙について議論する

ました。

(は、まく言われるリベラルアーツとは、まさにリベラルになるためのアーツだと言えるにリベラルになるためのアーツだと言えるでしょう。我々が昔、教科書で習ったニュートンやデカルト、ライプニッツといった人たちは皆、数学者であり哲学者です。世の中の真理を見極めて、自分が自由になろうと思うと、数学や物理とともに、哲学も必と思うと、数学や物理とともに、哲学も必と思うと、数学や物理とともに、哲学も必にリベラルアーツとは、まさばなのです。

らないということでしょう。 社会科学とを組み合わせて考えなければなが、本学とを組み合わせて考えなければなの力を肯定的に捉えていますが、科学だけの力を肯定的に捉えていますが、科学だけの力を肯定的に捉えていますが、科学

特異性ある個が繋がり合う社会

中島 総合知やリベラルアーツについて考す。そこでお二人に、芸術に関する御見解か。ある種の直感や芸術的なひらめきといっか。ある種の直感や芸術的なひらめきといっか。ある種の直感や芸術的なひらめきといっか。ある種の直感や芸術的なひらめまれているのではないでしょうか。

十倉 私は芸術について語るほどの知見は 十倉 私は芸術について話題の ChatGPT や A I などに美意識があるのか、美が判断で きるのかについては、疑問に思います。お きるでしょう。しかし我々人間の場合、世 わが美しかろうというものを選ぶことはで まるでしょう。しかし我々人間の場合、世 をるでしょう。しかし我々人間の場合、世 をるでしょう。とができます。こうし が、最近話題の ChatGPT や れ捉え方は若干違うとしても、「この花は ない」と感じることができます。こうし たことは A I では不可能だと思うのです。

地球規模の難題に取り組む 科学と人文学が手を組んだ「総合知」で

彑いに繋がり合うことが社会に必要 に学び、特異性ある個として



常に大事にすべきものでしょう。

ガブリエル 私の書いた『アートの力』とがう本が、ちょうど日本で出版されたばかりです。編集者が一冊贈ってくれましたが、その素敵な表紙に花の絵も描かれています。そこで自然の美や芸術の美という素晴らしいトピックについて考えてみたいと思います。十倉会長が Chat GPT についています。十倉会長が Chat GPT についています。十倉会長が Chat GPT についています。 かます。 計画 といいでは、 引用させていただきますが、 芸他れられたのは非常に良い議論だと思いましたので、 引用させていただきますが、 芸他れられたのは非常に良い議論だと思います。 のまは、それが他のあらゆる芸術作品と完めます。 ないまでは、 まずいと です。

ちは芸術作品の価値を認めているのです。です。取って代わるものがないので、私たそれに対し、芸術作品は純粋に特異なものわけではなく、どこかに共通性があります。人間は、他の人間と完全に異なっている

術の自由」なのです。うに読み取っています。これが私の言う「芸りません。私は芸術作品の自律性をこのよ芸術作品は、法に従属しているものでもあ

中島 ありがとうございます。ガブリエル中島 ありがとうございます。がブリエルとが言えます。花は一度だけ咲き、実に個とが言えます。花は一度だけ咲き、実に個とが言えます。花は一度だけ咲き、実に個とが言えます。花は一度だけ咲き、実に個に干渉しうるものですが、私たちよりもはに干渉しうるものですが、私たちよりもはに干渉しうるものですが、私たちよりもはに一時で認めるのです。これが、芸術の役割について、私が今考えていることです。

pluriel』(邦題『複数にして単数の存在』) pluriel』(邦題『複数にして単数の存在』) pluriel』(邦題『複数にして単数の存在』) という本を出しています。ガブリエル先生 が、すでに述べられた社会的であることと が、すでに述べられた社会的であることと どう繋がるかが重要です。つまり単なる数 として、塊として繋がっているのではなく、 特異性を有しながら繋がっていくことが、 社会には必要なのだということを思い出し 社会には必要なのだということを思い出し ました。

未来社会のあるべき姿

社会的自由が担保できる体制を

本主義、テクノロジーを踏まえて、私たちです。これまで論じてきた危機の問題や資いたいのは、未来の社会についてのお考え

い出しました。彼は『Étre singulierるジャン=リュック・ナンシーのことを思先生のお話を伺い、フランスの哲学者であ

創っていくのではないでしょうか。 術から来る創造力こそが、未来を新しく だろうと考えています。言い換えれば、芸 問題に基づいており、未来を創っていくの う構想するかということ自体が、複雑系の は未来をどう構想するのか。この未来をど

お考えを伺えますでしょうか。のように未来を構想、想像されているのか、花開く社会を望んでいますが、お二人はど

は、ガブリエル先生がおっしゃったように、かでリエル先生がおっしゃったいの自由しようとした時に、一番大切なものは何かいく世界、まさに花開くような世界を実現が社会を構成し、ソーシャルに結びついてが社会を構成し、ソーシャルに結びついてようと、やはり自由でしょう。その自由と言うと、やはり自由でしょう。



移動の自由などが必要だと考えています。会的な自由でなければなりません。自由が全てまかり通ると言いたいわけではなく、に言えることが重要なのです。内心の自由に発言できること、考えたことを自由に発言できること、考えたことを自由にがしたが重要なのです。内心の自由などが必要だと考えています。

大来の話をしているのだと考えます。 な話に戻して申し訳ないのですが、それを す能にするのは、やはり今の自由民主主義 について、「最悪の政治形態だ。ただし、 これまでに試みられてきた全ての政治形態 を除けば」と言いました。 逆説的な言い方ですが、これほどコストや時間のかかるシステムはないものの、過去にこれ以上のシステムはないものの、過去にこれ以上のシステムはないったということでもあり、これによって自由が担保できているのだと考えます。

す。ですから、政権が倒れるまで過ちが続まうので、ノーということが難しくなりま義は、間違いを認められないものです。リー義は、間違いを認められないものです。リーをるかもしれませんが、専制主義や全体主きるかもしれませんが、

いる点です。うのが、未来を考える上で一番気になってう。その世界をどうやって築けるのかといはり自由民主主義しか考えられないでしょくのです。自由を担保できる体制は、や

V-Dem 研究所という調査機関によれば、現在の世界では専制主義の国の方が多いと主義の国が過半を占めると言われています。 「衣食足りて礼節を知る」ということわざもありますから、まず生存できなければ意もありますから、まず生存できなければ意きる体制は、私は自由民主主義しかないときる体制は、私は自由民主主義しかないと考えています。

伺えますでしょうか。 (New Enlightenment)」という考えを提唱されています。それと未来の社会の構提唱されています。それと未来の社会の構めを必要がある。

在するということがあると示したのが、この本。という言葉だが、その根底に、他者とともに複数の仕方で存ら、「特異性」とか「単独性」と訳されるのが、singularity。

専制主義の国に住んでいる。 発行しており、2022 年版によると、世界の人口の72%が7.V-Dem 研究所は、毎年『Democracy Report』を

経済成長を「生の形式」で考える

ガブリエル 私たち誰もが同じものに価値を見出す空間にいることを、大変嬉しく思います。これは実に重要なことです。十倉会長の重要なお考えに付け加えるとすれば、コンドルセの理論以来、科学的なエビデンスによって自由民主主義の優位性が示され、あらゆる政治学や経済学もその優位性を提あらゆる政治学や経済学もその優位性を表っ。意図しない結果を生じさせたとしても、自由民主主義はそれらを修正することができるのです。その能力は、花にも未来にもきるのです。その能力は、花にも未来にもあるのです。それこそが生命だからです。

す。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては、経済学の中でもトレンドコ」というのは、経済学の中でもトレンドコ」とです。ある考えを試して、試行錯誤のプとです。ある考えを試して、試行錯誤のプロセスを通って成長していくということです。「エコ・ソーシャル・リベラリズムというまで、成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。成長に対しては批判もたくさんあります。

るべきなのです。 をべきなのです。SDGsの目指す経済成長 という意味で解釈されるべきでは なく、成長すること、つまり中島先生がおっ なく、成長すること、つまり中島先生がおっ は、単なる蓄積として解釈されるべきでは は、単なる蓄積として解釈されるべきでは

min を意味する、Ich bin、の、bin、am、を意味する、Ich bin、の、bin、am、を意味する、Ich bin、の、bin、という言葉は、古代ギリシャ語で自然を意くという意味もあります。字義通りには成けという意味もあります。字義通りには花開まって存在するということで、それは花のようにあることなのです。

「新しい啓蒙」というのは将来へのビジョンでもあるわけですが、近代の中にある前近代的な様相との協力の可能性を開くものです。近代的な様相との協力の可能性を開くものです。近代のな様相との協力の可能性を開くものにより、私たちが生命の一部であるという事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。という事実を再認識することになります。



しょう。 これからはさらに普遍的な考えとなるで

形式」は、現在の私たちに真に求められてすから、生命科学が果たす役割はますます大きくなっていくものと考えています。生命科学は、経済システムを、物理的メカニズムの形式ではなく、「生の形式」という用語で考える必要があると教えてくれます。生命的なシステムから、経済に対して多くの学びが得られるでしょう。これが私の考える未来の姿です。そのように考えるようになればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はより強力になればなるほど、人類の結束はよりでする。

ているものでしょう。また十倉会長のおっているものでしょう。また十倉会長のおっしゃった言葉の中にもヒントがありました。「衣食足りて礼節を知る」の「礼」という言葉は、儀式あるいはある種の規範を意味しており、それが私たちの「生の形式」をしており、それが私たちの「生の形式」をになってそうしたが、依然として私たちの重要になってそうしたが、依然として私たちの重要な思考資源だと思います。「生の形式」をもう一回読み直すのは、とても大事なのではないでしょうか。

サステイナブルな資本主義の実現を

うか。 対談についてのご感想を伺えますでしょ **中島** 最後にお二人から一言ずつ、本日の

知的な思考に深く関与されているのを目の**ガブリエル** 日本の経済界のトップの方が

していただいて、どうもありがとうござい当たりにし、大変嬉しく思います。倫理的で、サステイナブルな資本主義の形式について考えておられることは実に安心できるいて考えておられることは実に安心できるにとです。私が今まで追求してきた方向性意会長におかれては、このような対談の機会を設けていただき、また、ケインズの言うところの道徳科学や価値判断という非常に重要な考えを的確に持ち出して議論常に重要な考えを的確に持ち出して議論

ついて経団連の21世紀政策研究所と共同研究に思います。また最初にお伝えすべきでしたが、国境を超えて、産業とアカデミアしたが、国境を超えて、産業とアカデミアと対談できたことを非常に嬉しく、かつ光と対談で

礼を申し上げます。 究を進めてくださっている中島先生に、お

(2023 年5月8日 経団連会館)

6日)8 NHK BS1「欲望の時代の哲学 2023 年8月

サステイナブルな資本主義を実現する 経済システムを「生の形式」として捉え



